

第2回大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議の概要

平成16年6月12日(土) 13時30分～15時30分

前回の議論に基づき事務局があらかじめ示した論点について、委員の意見を求めました。

■大四日市まつりの行事内容

◆現状

秋の四日市祭	大四日市まつり	
	伝統型	市民参加型
大入道	大入道	ドリームパレード
鯨船	鯨船	みんなで楽しもうお祭り広場
岩戸山	岩戸山	リトルおどりフェスタ
甕破り	甕破り	おどりフェスタ
菅公	菅公	市民総踊り
大名行列	大名行列	カッターレース(港まつり)
御諏訪神輿	御諏訪神輿	Kai-kou
富士の巻狩り	—	
諏訪太鼓	諏訪太鼓	
—	日野大念仏	

◆会議で出された意見

- 成功している祭りは、主に市民参加型の祭りである。
- 団地に一過性の祭りが多いのは、伝統行事でない市民参加型で次世代につながらないから。
- 夏の祭りは市民参加型の祭りがふさわしい。
- 夏の祭りはイベント、秋の祭りは諏訪神社への奉納。夏にも、山車は参加したい。
- 地域性は残しつつ、市民が参加できる楽しい行事を取り入れていくことが必要。
- これ以上地区の祭りを取り入れる必要はない。おど日もシンプルで分かりやすくすべき。
- 地区対抗という要素を加えることにより、盛り上がるのではないか。
- 大四日市まつりは伝統行事。来年から一変しては、既参加者の同意が得られない。
- 若い人向けの行事が必要。
- 大入道を、祭りの最中にいつでも見られるように陳列等してはどうか。
- 街の飾り付けをしてはどうか。
- 祭りとはイベントは別物。イベントは時代の流れに応じて変わるが、祭りは伝統を継承し変わるべきではない。1日目はイベント、2日目は伝統行事として分けてはどうか。
- 他の祭りに比べて掛け声や囃子が少なく、観客が祭りに参加しにくい。
- 食の仕掛けも必要。例えば大矢知そうめんによる流しそうめんなど。

■大四日市まつりの開催時期

◆会議で出された意見

- 山車としては、夏の祭りはかなり暑くてきつい。
- 祭りの時期が夏というだけで、集客は減る。春が良いのではないか。
- 夏は子供たちが休みで、練習に励むことができる。春や秋は練習が減って参加者が減る。
- 諏訪太鼓も、夏休みだからこそ集中して練習ができる。
- 夏、秋両方に大入道が出演するのは、期間が近くてありがたみが欠ける。
- 見る側の視点に立って、市民が参加しやすいよう日程等をきめるべき。
- 「市民参加」「伝統行事」は、同時期の日程でなく、季節など開催時期で分けるべき。

■その他

◆会議で出された意見

- 企業や学校単位の参加が少ない。参加あればこそ盛り上がる。
- サンバフェスタでは、企業も連を持っていた。協賛金も負担している。
- 他の地域の祭りを見ると、それぞれが競い合い、上位チームには商品を出している。
- 諏訪太鼓のコンテストは、各団体からの不満もあり現在は行っていない。
- 第1回新祭りとしてネーミングを新たにしてもよい。
- 成功を収めている祭りには、成功の仕掛けが存在するはず。ノウハウを聞くべき。
- 祭りの是非を問うことが必要。現在のマイナーチェンジなら、実行委員会で検討すべき。
- ハード面でも他のまつりに比べて弱い。音響設備も良いほうが参加者も力が入る。
- 他地域の祭りに、大四日市まつり代表としての参加が必要。

■まとめ

◆地域性を活かした祭りとするべきか、または市民参加イベントとするべきか

- 「市民参加のイベント」を主体としつつ、「伝統行事」にも披露の場を設ける方向で検討する。
- 「地域のまつり」を意識的に取り込む必要はない。
- いずれの行事も、市民全体が共通して参加できる祭りを目指すべき。
- ただし、それぞれの行事は、日または時間帯、もしくは季節で分けることも必要。

◆集客を目的とした観光的祭りとするべきか、または市民が参加して楽しむ祭りとするべきか

- めざす方向は「市民が参加して楽しむイベント」。それが実現した上で、「集客を目的とした観光的祭り」を目指す方策が必要。
- 学校や企業の参加が不可欠。
- 四日市市限定の参加ではなく他地域からも参加できるイベントとする。
- 「伝統行事」(郷土文化財)の見せ方にも、工夫が必要。